

千葉大学医学部附属病院で トランスサイレチン型心アミロイドーシスを疑われ 検査・治療が行われた患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年1月15日

循環器内科

循環器内科では、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2018年1月1日～2026年1月14日の間にトランスサイレチン型心アミロイドーシスを疑われ検査・治療が行われた方

1. 研究課題名

「トランスサイレチン型心アミロイドーシスの臨床像解明を目的とした単施設後ろ向き観察研究」

2. 研究期間

2026年承認日～2028年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

トランスサイレチン型心アミロイドーシスは、肝臓で作られるトランスサイレチンというタンパク質が何らかのメカニズムによってアミロイド線維という異常な物質に変化してしまい、それが心臓の筋肉に沈着することで心臓が十分な働きができなくなってしまう病気です。従来、稀な病気と考えられていましたが、近年の画像診断技術の向上により、特に高齢者においてその有病率は以前考えられていたよりも高いことが明らかになってきました。

従来はこの病気に対する特別な治療法はありませんでしたが、2019年にトランスサイレチンを安定化させてトランスサイレチン型心アミロイドーシスの進行を抑制するタファミジスという薬が本邦で承認されました。この薬はト治験においてトランスサイレチン型心アミロイドーシス患者さんの予後を改善することが証明されており、早期に診断し治療を開始することの重要性が高まっています。

本研究では、当院においてトランスサイレチン型心アミロイドーシスを疑われ検査・治療が行われた患者さんの背景、検査所見、治療経過および予後といった情報をカルテから収集し、解析を行います。この研究によってトランスサイレチン型心アミロイドーシスの早期発見に寄与する特徴や予後に関連する因子が明らかとなれば、当院のみならず全国におけるトランスサイレチン型心アミロイドーシス診療の質の向上につながる可能性があります。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている患者基本情報（性別・身長・体重・合併症・既往歴・現病歴・内服薬など）、血圧・脈拍・経皮的動脈血酸素飽和度などの測定値、12誘導心電図・胸部レントゲン・血液検査・経胸壁心臓超音波検査・心臓カテーテル検査・画像検査（CT, MRI等）などの検査所見を収集します（他院で施行され当院紹介時に情報提供されたものも含みます）。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：循環器内科 助教 加藤賢

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院循環器内科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、研究結果について当該機関の研究者等の判断の下、原則、研究対象者に開示します。また、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの

詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。
情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

循環器内科 助教 加藤賢

043(222)7171 内線 72095